YOSHITOMO NARA
+ graf
AtoZ

July 29 - October 22, 2006

Hirosaki

www.harappa-h.org/AtoZ/

YOSHITOMO NARA
+graf
AtoZ
July29-October22,2006
Hirosaki
www.harappa-h.org/AtoZ/

1 はじめに

2006年の夏から秋にかけ、奈良美智の故郷である青森県弘前市で、これまで誰も観たことがなかったような出来事が起こります。「A to Z」と題したこのプロジェクトは、美術展といった枠組みではとらえきれない前代未聞の内容となることでしょう。

「A to Z」と聞いて、ロンドンを歩くときにこの１冊さえあれば必ずどこにでもたどり着ける同名の地図帳を思い浮かべた方もいるはず。「A to Z」は「何から何まで、全部」という意味を指すことばでもあります。つまり奈良美智＋grafをとりまくあらゆる要素がこの中に取り込まれるという意味もあるのです。

2003年12月に大阪のgraf media gmで行われた奈良美智展「S.M.L.」の３軒の小屋からはじまったこのプロジェクト。さまざまなテーマをもつ、AからZまでの小屋がレンガ倉庫内に建てられ、街並みともいえる風景がそこに出現することになります。そして、ここに集まるすべての人々の目の前に奈良美智＋grafは、『夢』を実現させてくれます。

2 開催概要

会　期　：　2006年7月29日‐10月22日（7月初旬プレオープン期間を予定）
事業名　：　奈良美智＋graf　A to Z
会　場　：　吉井酒造煉瓦倉庫（青森県弘前市吉野町2-1）
開館時間：　10:00〜19:00（最終入場は閉館30分前）＝予定
休館日　：　月曜日（月曜が祝日のばあいは火曜休館）
入場料　：　一般1000円、大学生・高校生700円、中学生・小学生300円 ＝予定 （各種割引等も予定）
主　催　：　A to Z 実行委員会
〒036-8182 青森県弘前市土手町78ルネス街2F NPO harappa内
tel:0172-31-0195　fax:0172-31-0196　担当:奈良岡、小杉
e-mail　a_z@harappa-h.org　　http://www.harappa-h.org/AtoZ/
特別協力：　小山登美夫ギャラリー
カタログ制作：　（有）フォイル
後援、助成、協賛、協力団体等：現在未定
広報担当：　工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082　fax:06-6459-2083

3 内容

A to Zとは...

このプロジェクトのあらましは、奈良美智の執筆した“『A to Z』への道 ”をご参照ください。

26ではおさまらない予定の、それぞれにテーマをもつ小屋

吉井酒造煉瓦倉庫に建てられる小屋は、ペインティングやドローイング、写真作品が展示されるだけではありません。奈良美智＋grafとのかかわりの深いアーティストたちも参加。ファイン・アートにとどまらず、さまざまな作り手たちが境界を越えてライブやワークショップなども含めコラボレーションを展開してゆく予定です。

友情出品作家

奈良美智＋grafをとりまく気鋭のアーティストたちが友情出品する予定。

『A to Z』への道 ── 奈良美智

『夢』という言葉がある。
人は子供の頃には限りなく現実味のない夢を持つ。
そして大人になり、社会を知るようになるにつれてその夢はどこかへ消え去っていく。

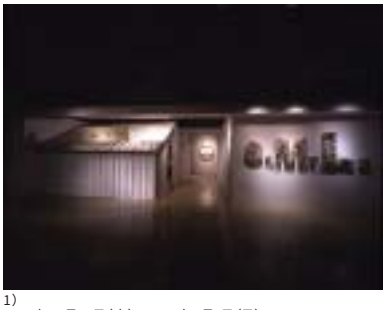
僕は絵を描いて暮らしているのだけども、それは孤独な作業で、一人で考え悩む。
真夜中に、アトリエの中で一人絵に向かい孤独に作業するのが常だ。そうやって描きためた作品で展覧会を開いたりしてきたのだけれど、自分が生きていると実感できるのは、実際に絵を描いている時であり、展覧会開催前に会場で作品を飾りつけ終えると、自分の中ではその展覧会はすでに終了していた。オープニングのパーティというものも、そんなに楽しいものではなかったし、早く家に帰って一人になりたいとさえ思ったりもした。
しかし、ある時から展覧会のオープニングを迎えることが楽しくなりだした。その最初は2002年の夏、横浜美術館から巡回した個展『I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.』を、自分の出身地である弘前で開催した時だ。その開催場所は今までのように美術館という場所ではなかった。弘前展は、子供の頃から見慣れていた、古くて大きな煉瓦倉庫という場所で開催されたのだけども、そもそも弘前展は、倉庫の所有者である吉井さんという方が無償で場所を提供してくれるというところから始まった。たまたま本屋さんで僕の画集を見た吉井さんが、煉瓦倉庫を使って僕の展覧会ができないだろうかと思ったことがきっかけだったのだ。
個展を開催するために一般の人々が実行委員会を組織し、ボランティアが募られた。つまり、本当に展覧会を開催したい人々によってのみ実現する展覧会なのだった。そして、彼らの手によって煉瓦倉庫は作品を展示する空間に生まれ変わっていったのだ。
展示作業をするために煉瓦倉庫の扉を開けた時、そこには既存の美術館にはない空気が漂っていた。広い空間の中で、掃除をし、壁を作り、ペンキを塗った人々の息遣いが消えずにまだ存在していたのだ。そう感じた空気は展示作業中も消えることなく僕を包み込んでいたし、展示作業を終えてオープニングパーティを迎える頃には、僕もその人々が残していった気配に溶け込んでいた。
熱意を持った人が関わって実現した弘前展は、自分にとって初めてとでも言える、人々との共同作業で出来上がったものだ。展示した作品たちは、今まで展示したどの巡回地よりも輝いて見えたし、初めからこの空間に展示されるのがゴールであるかのように感じられたのだ。そして会期が終了する日まで、僕は何度も何度もその空間を想っていた。
自分にとって弘前での展覧会は、初めて人との共同作業で作り上げたという思いがあり、開催後もその充実感で自分は満たされることになったのだが、それがある種の『夢』の実現であったと気付くのにはまだ時間が必要だった。
2003年の暮れに大阪で『S.M.L.』というタイトルのもと、大中小という３つのサイズの小屋を作り、そこに作品を展示するという個展をgraf media gmという場所で開催した。
grafというのは大阪で家具製作を中心に活動しているクリエイターのグループで、会場は彼らの運営しているギャラリーだった。会場設定のイメージは、彼らの中心的人物である豊嶋くんと話し、考え合って決めていったのだけども、自分がとてもわくわくしているのに気づいたのだった。それは弘前で感じたような、共同で一つの目的を達成していくときに感じられたようなものだ。自分の頭の中にあっても、一人では達成できないと最初からあきらめてしまうような想いを、誰かとその目的を共有し作業することで達成しようとすること。そして、その時に感じられるものは一人で絵を描いている時には決して得られない感動だった。
小さな小屋にはgraf製作による小さな家具を置いて、壁に僕の写真作品を展示した。中くらい、というか普通の大きさの小屋には、机を置き、僕のアトリエのように絵を描く部屋にして、まさに制作中というような雰囲気にし、実際にそこで制作した。大きな小屋では壁一杯の大きさでスライドを上映し、巨人が座るようなベンチを置いた。
オープニングを迎えた日、思ったように展示できた満足感と、それを共有できる仲間がいるという嬉しさに気分は高揚した。その後もgrafとの共同作業は、小屋を中心とした展示空間を作るということで続いていくのであった・・・のだが、その共同作業を続けていくうちに、それこそ夢のようなアイディアが浮かんできたのだった。
それは、あの弘前の煉瓦倉庫の大きな空間を使って、AからZまで26個の小屋を建て、そこに作品を展示する!というようなものだ。架空の街並みにも似た、小屋が立ち並ぶという光景を想像するだけで僕らの心は躍った。まさしく『夢』のようなアイディアだけれども、僕らは今までの作業を通じて、想像するその展示風景が現実になりえるという確信を持っていた。『夢』を現実にしたいという気持ちと、それを現実に出来るという確信。
しかしながら、前回の弘前展のように弘前の人々の助けが要るであろうことは確かだし、それがなければこの『夢』は夢で終わってしまうだろう。けれども、僕もgrafのみんなも『夢』を現実にする。人を信じることと、同じ夢を持つ人と一緒に、同じ夢を見ること。その夢を達成して、同じ感動を共有すること。僕らはその夢の実現を2006年の夏に位置づけた。
今まで僕らが作った小屋は全部で13個。残っているのはあと半分の13個だ。そして、2005年の夏には韓国のソウルでも小屋を作り、秋には横浜トリエンナーレでも小屋を作る。

実際のところ、AからZまでの26個では終わらない!

YOSHITOMO NARA
+graf
AtoZ
July29-October22,2006
Hirosaki
www.harappa-h.org/AtoZ/

S.M.L.にはじまった奈良＋grafの軌跡

奈良美智＋graf 活動遍歴
2003年grafの運営するギャラリーgraf media gmで開催された奈良美智「S.M.L.」展以降、大阪、東京、横浜、鳥取、福井、弘前、台湾、韓国と様々な場所で、奈良美智の作品の展示空間としての小屋を、奈良美智＋graf は共同で制作することになりました。



1）
2003年12月20日（土）‐ 2004年2月1日（日）
奈良美智展『S.M.L.』
graf media gm（大阪）

「S.M.L.」
photo:©Yasunori Shimomura

2003年12月‐2004年2月
展覧会名：「S.M.L.」展
（奈良美智とgrafの共同企画展）
開催場所：graf media gm（大阪）
内　容　：S.M.Lサイズの３つの小屋を制作

2）
2004年2月21日（土）‐ 5月9日（日）
『タイム・オブ・ライフ Time of My Life art with Youthful Sprit ‐ 永遠の少年たち』
東京オペラシティアートギャラリー（東京）

NARA Yoshitomo + graf
「S.M.L.」
mixed media
2003
photo:©KIOKU Keizo
photo courtesy:Tokyo Opera City Art Gallery

2004年2月‐5月
展覧会名：「タイム・オブ・ライフ Time of My Life art with Youthful Sprit ‐永遠の少年たち」展
（Yoshitomo Nara＋graf 参加グループ展）
開催場所：東京オペラシティアートギャラリー（東京）
内　容　：「S.M.L.」展で制作した３つの小屋を会場に会わせて再構成

3）
2004年7月17日（土）‐ 9月20日（月・祝）
『ノンセクト・ラディカル　現代の写真』
横浜美術館（東京）

「Kabul Note 2002」
photo:©横浜美術館

2004年7月‐9月
展覧会名：「ノンセクト・ラディカル　現代の写真」展
（Yoshitomo Nara＋graf 制作作品参加グループ展）
開催場所：横浜美術館（神奈川）
内　容　：奈良のスライド映写作品「カブール・ノート2002」のための小屋を制作

※資料画像の提供とご使用について
画像資料の番号をお知らせいただければ、メール添付あるいはCD-Rをお送り致します。
開催地、撮影者ほかのクレジット等お間違いのないように、ご確認の上、ご使用ください。

広報担当：工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082　fax:06-6459-2083
e-mail　az@graf-d3.com　http://www.graf-d3.com/

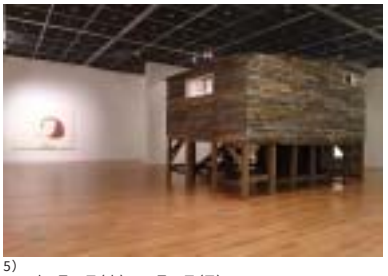
YOSHITOMO NARA
+graf
AtoZ
July29-October22,2006
Hirosaki
www.harappa-h.org/AtoZ/

2004年‐2005年
展覧会名：「Yoshitomo NARA　From the Depth of My Drawer」展
内　容　：原美術館収蔵作品となるインスタレーション「My Drawing Room」を制作、
その後展覧会巡回地４カ所で展示会場制作。
ソウルへの巡回では新作として「ソウルハウス」を現地制作。
2004年　8月‐10月　原美術館（東京）
10月‐11月　金津創作の森（福井）
2005年　2月‐3月　米子市美術館（鳥取）
4月‐5月　吉井酒造煉瓦倉庫・弘前（青森）
6月‐8月　Rodin gallery（ソウル・韓国）

4)
2004年8月11日（水）‐10月11日（月・祝）
『Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer』
原美術館（東京）

「My Drawing Room」
2004.8.-
©2004 Yoshitomo Nara
制作協力:graf
Collection:Hara Museum of Contemporary Art
Photo:Hirotaka Yonekura

2004年8月‐10月
展覧会名：「Fiction Love」展
（Yoshitomo Nara＋graf 制作作品参加グループ展）
開催場所：台北當代藝術館（Museum of Comtemporary Art,Taipei）
（台北・台湾）
内　容　：「Taipei Summer House」を現地制作

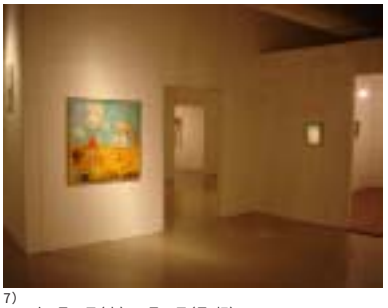


5)
2004年8月21日（土）‐10月31日（日）
『Fiction Love』
台北當代藝術館［Museum of Comtemporary Art,Taipei］
（台湾・台北）

「Taipei Summer House」
photo:©台北當代藝術館
［Museum of Comtemporary Art,Taipei］

6)
2004年10月19日（火）‐11月28日（日）
『Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer』
金津創作の森　アートコア　ミュージアム-1（福井）

photo:©Hako Hosokawa



7)
2005年2月10日（木）‐3月21日（月・祝）
『Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer』
米子市美術館（鳥取）

photo:©Kaoru Kon

※資料画像の提供とご使用について
画像資料の番号をお知らせいただければ、メール添付あるいはCD-Rをお送り致します。
開催地、撮影者ほかのクレジット等お間違いのないように、ご確認の上、ご使用ください。

広報担当:工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082　fax:06-6459-2083
e-mail　az@graf-d3.com　http://www.graf-d3.com/

2004年12月‐2005年2月
展覧会名：「Shallow Puddles」展
（奈良美智とgrafの共同企画展）
開催場所：graf media gm 大阪
内　容　：八角形の部屋を中心に構成された小屋を制作

2005年3月‐6月「秘すれば花：東アジアの現代美術」展
（Yoshitomo Nara＋graf 制作作品参加グループ展）
開催場所：森美術館（東京）
内　容　：created room#1、created room#2を制作

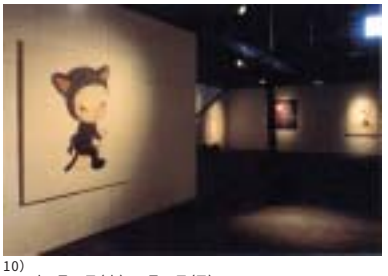
これからの予定
2005年9月初旬　マリアン・ボウスキー・ギャラリー（N.Y.・米国）
2005年12月　　graf media gm（大阪）

8）
2004年12月24日（金）‐2005年2月6日（日）
奈良美智展『Shallow Puddles』
graf media gm（大阪）

「Shallow Puddles」
photo:©Yasunori Shimomura

9）
2005年3月29日（火）‐6月19日（日）
『秘すれば花:東アジアの現代美術』
森美術館（東京）

奈良美智
ミクスト・メディア
「graf」との共同作品
「秘すれば花:東アジアの現代美術」展示風景
写真:木奥恵三
写真提供:森美術館



10）
2005年4月16日（土）‐5月22日（日）
『Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer』
吉井酒造煉瓦倉庫（弘前）

photo:©Masako Nagano

11）
2005年6月17日（金）‐8月21日（日）
『Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer』
rodingallery（韓国・ソウル）

※資料画像の提供とご使用について
画像資料の番号をお知らせいただければ、メール添付あるいはCD-Rをお送り致します。
開催地、撮影者ほかのクレジット等お間違いのないように、ご確認の上、ご使用ください。

広報担当:工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082　fax:06-6459-2083
e-mail　az@graf-d3.com　http://www.graf-d3.com/

4 作家プロフィール

奈良美智（なら・よしとも）

1959　12月5日、青森県弘前に生まれる
1987　愛知県立芸術大学大学院修了
1993　国立デュッセルドルフ芸術アカデミー修了
東京在住

個展

1988　「innocent being」ギャルリーユマニテ東京（1992、1995）
　　ギャルリーユマニテ名古屋（1991、1992、1995）
1990　ギャレリ・デ・エント、アムステルダム（1991、1992、1994）
1992　ギャレリ・ヨーネン+シュッテル、ケルン（1996、2000）
1994　「lonesome babies」白土舎、名古屋（1996、1997、1999）
1995　スカイザバスハウス、東京
　　「Pacific Babies」ブラム＆ポー、サンタモニカ（1997、1999、2001、2004）
1997　「Screen Memory」小山登美夫ギャラリー、東京（1996、1999、2003）
　　「sleepless night」ギャレリ・ミヒャエル・ツィンク、レーゲンスブルグ、ドイツ
1998　インスティテュート・オブ・ヴィジュアルアーツ、ウィスコンシン大学、ミルウォーキー
1999　「Walking alone」資生堂ザ・ギンザ・アート・スペース、東京
　　「Pave Your Dreams」マリアン・ボエスキー・ギャラリー、 ニューヨーク（2002）
　　「done did」パルコギャラリー、名古屋
2000　「Walk On」シカゴ現代美術館、シカゴ
　　「Lullaby Supermarket」サンタモニカ美術館、サンタモニカ
　　スティーブン・フリードマン・ギャラリー、ロンドン（2003）
2001　「Drawing Days」コレット、パリ
　　「Clear For Landing」ギャレリ・ミヒャエル・ツィンク、ミュンヘン、ドイツ
　　「I Don't Mind, If You Forget Me.」横浜美術館［日本巡回］
2002　「who snatched the babies？」cneai、シャトゥー、フランス
2003　「Nothing Ever Happens」クリーブランド現代美術館［2003 - 2004年アメリカ巡回］
　　ギャレリ・ツィンク＆ゲグナー、ミュンヘン、ドイツ
　　「S.M.L.」graf media gm、大阪
2004　ブラム＆ポー、ロサンゼルス
　　ギャレリ・メイヤ・カイヤー、ウィーン、オーストリア
　　「From the Depth of My Drawer」原美術館、東京［2004 - 2005年日本、韓国巡回］
　　「Over the Rainbow」（杉戸洋と２人展）ピナコテーク・デア・モデルネ、
　　ミュンヘン、ドイツ［2005年ドイツ巡回］
　　「Shallow Puddles」graf media gm、大阪

主なグループ展

1996　「子供の情景」三重県立美術館、三重
　　「TOKYO POP」平塚市美術館、神奈川
　　「ヒニクなファンタジー」宮城県美術館、仙台、宮城
1997　「VOCA展 '97」上野の森美術館、東京
　　「日本現代美術展」ソウル国立現代美術館、韓国
1999　「時代の体温　Art / Domestic」世田谷美術館、東京
　　「New Modernism for a New Millennium」サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ
　　「Painting For Joy : 90年代の絵画展」国際交流基金フォーラム、東京［国外巡回］
　　「アートは楽しい10　天国で地獄」ハラミュージアムアーク、群馬
　　「Almost Warm and Fuzzy : Children and Contemporary Art」
　　デモイン・アート・センター、アイオワ、アメリカ［アメリカ巡回］
　　「Vergib den Ball und Spiel Weiter」ニュールンベルグ・クンストハーレ、ドイツ
2000　「スーパーフラット」パルコギャラリー、東京［国外巡回］
　　「Continental Shift」ルードヴィヒフォーラム、アーヘン、ドイツ
　　「Dark Mirror of Japan」デ・アペル、アムステルダム
　　「Présmés Innocent」ボルドー現代美術館、フランス
　　「The Darker Side of Playland」サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ
　　「現代：Japanese Contemporary Art Between The Body And Space」
　　ヴィヤドフスキ城現代美術センター、ワルシャワ、ポーランド
　　「The Japanese Experience Inevitable」ザ・ブリックレ・シュティフトゥング財団、
　　クライヒタール、ドイツ［2004年ザルツブルグ近代美術館に巡回］
2001　「SUPER FLAT」ロサンゼルス現代美館分館MOCAギャラリー、ロサンゼルス［アメリカ巡回］
　　「My Reality - Contemporary Art and the Culture of Japanese Animation」
　　デモイン・アート・センター、アイオワ［アメリカ巡回］
　　「Public Offerings」ロサンゼルス現代美術館、ロサンゼルス
　　「先立未来」ルイジ・ペッチ現代美術館、プラト、イタリア
　　「Neo Tokyo」シドニー現代美術館、シドニー、オーストラリア
2002　「Drawing Now - Eight Proposition」ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク
　　「BABEL 2002」ソウル国立現代美術館、ソウル、韓国
2003　「M_ARS - ART AND WAR」ノイエ・ギャレリ、グラーツ、オーストリア
　　「絵画の現在」新潟県立万代島美術館、新潟
　　「Ninos」サラマンカ・アートセンター、サラマンカ、スペイン
　　「I bambini siamo noi」トレント市立現代ギャラリー、トレント、イタリア
　　「ハピネス」森美術館、東京
2004　「SUPERNOVA」サンフランシスコ近代美術館、サンフランシスコ
　　「ノンセクト・ラディカル」横浜美術館、神奈川
　　「Fiction. Love」台北當代藝術館、台北、台湾
　　「FUNNY CUTS」シュトゥットガルト国立ギャラリー、シュトゥットガルト、ドイツ
2005　「秘すれば花」森美術館、東京
　　「Little Boy」ジャパンソサエティー、ニューヨーク

パブリック･コレクション

国際交流基金
青森県
資生堂
ピーター・ノートン財団
サンフランシスコ近代美術館
ロサンゼルス現代美術館
角川書店
ルベルファミリーコレクション
愛知県立芸術大学
ニューヨーク近代美術館
高松市美術館
原美術館
Neues Museum、ニュールンベルグ
徳島県立近代美術館
シカゴ現代美術館
東京オペラシティーアートギャラリー
広島市現代美術館

graf

スペースデザイン、家具、照明、グラフィック、プロダクトデザイン、アートから食に至るまで「暮らしのための構造」を考えてものづくりをするクリエイティブユニット。モダンデザインを主流としつつ、既存のものにとらわれない自由なデザイン展開で、商品販売はもちろん店舗空間やアートディレクションなど多方面にわたり活動中。
大阪を拠点にロンドン・東京にもオフィスを持つ。

decorative mode no.3 なるユニット名で '93年から活動を続け、'98年4月大阪の南堀江にショールーム "graf" をオープン。'00年大阪 中之島へ移転。ショウルーム、カフェ／レストラン、ギャラリーを運営。'03年graf bld.5Fのギャラリー「gm」が隣ビル一階に移動し「graf media gm」としてリ・オープンする。母体はdecorative mode no.3、現在活動全体を総称してgraf（グラフ）と呼ぶ。創設メンバーは服部滋樹、荒西浩人、戸倉健二、豊嶋秀樹、松井貴、野澤裕樹の６名。
URL: www.graf-d3.com

奈良美智＋graf　A to Z プロジェクトは、奈良と、grafが運営するオルタナティブスペース「graf media gm」（*参照）の企画制作を担当する豊嶋秀樹を中心に、チームを組んで進められている。メンバーは野澤裕樹（graf／大工）を筆頭に、流動的ではあるがフリーランスで活動している青柳亮、小西康正、高野夕輝などのサポートスタッフによって構成されている。

*『暮らし』というものをベースにモノづくりを行っているgrafの『場としてのメディア』。ギャラリースペース、バースペース、ショップスペースを併設した空間で展覧会の開催、音楽やトークイベントの開催、プロダクトの開発、書籍の発行などを行ってる。
URL: www.graf-d3.com/gm

豊嶋秀樹（とよしま・ひでき）

1971年　大阪生まれ。
1991年　サンフランシスコ・アート・インスティテュート卒業。
2001年　チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン修了。

grafの立ち上げメンバーであり、grafの運営するgraf media gmの企画制作をしている。
また展示デザイン、展示演出、アートディレクションなども手掛ける。
graf media gmで開催された奈良美智「S.M.L.」展から始まった A to Z プロジェクトの共同企画・制作者でもある。

---
graf media gmで開催された主な展覧会

草間彌生との家具企画制作「YAYOI KUSAMA Furniture by graf」（2002）
松蔭浩之個展「昇降する男、横断する女」（2003）
キノコ＋ graf meet & greet　珍しいキノコ舞踊団コラボレーション公演・制作「こんにちは。」（2003）
都築響一個展「ラブホの夢は夜ひらく」（2003）
奈良美智個展／コラボレーション制作「S.M.L.」（2003）
スーザン・チャンチオロ個展「クリスタル マウンテン ブリッジ」（2004）
田名網敬一との家具企画制作「昇天する家具」（2004）
澤文也との共同企画展「８月のタイ: welcome to soi sabai」（2004）
奈良美智個展／コラボレーション制作「Shallow Puddles」（2004）
吉永マサユキ個展「BAMBO」（2005）

その他

展示場制作・展示演出
「ブリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち展」国立民族学博物館：大阪（2005年）

会場デザイン・制作
川内倫子展「AILA」金津創作の森：福井（2005年）

アートディレクション・展示デザイン
「YAYOI KUSAMA Furniture by graf 」Galleria Carla Sozzani：ミラノ（2005年）

展示物企画・制作
OSAKA ・ART・KALEIDOSCOPE「OSAKA 04」ー春・花・生 21世紀の芸術と生命の交差
大阪府立現代美術センター：大阪（2004年／2005年）

書籍

デザイン
後藤繁雄「僕らは編集しながら生きている」（株式会社マーブルトロン／2004年）

企画・編集・デザイン
「YAYOI KUSAMA Furniture by graf」（青幻舎／2003年）

アートディレクション
Yoshitomo Nara + graf documented by Masako Nagano「This is a time of...S.M.L.」（青幻舎／2003年）

パブリック・コレクション

埼玉県立近代美術館

5 会場となる吉井酒造煉瓦倉庫について

吉井酒造煉瓦倉庫

弘前の市街地に位置する吉井酒造煉瓦倉庫は、戦前、東北最大の酒造所であり、戦後は、フランス人技術者を招き、日本で最初の林檎酒（シードル）を醸造していました。奈良美智が、子供の頃には、すでに酒の醸造はおわっており、この大きな倉庫を、好奇心をもって眺めつづけた場所でした。

2000年、12年滞在したドイツから帰国し久しぶりに故郷・弘前へと戻った奈良は、その時初めてこの倉庫の中に入り、倉庫の内部空間の美しさに魅了されます。そうして開催されたのが、横浜美術館を皮切りに開催され、芦屋市立美術博物館、広島市現代美術館、北海道立旭川美術館を巡回し、2002年ファイナルをこの場所で迎えた「個展 I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」でした。

その後、原美術館（東京）にて昨夏スタートした「Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer」展が、本年4～5月にここに巡回しました。

建物構造

所在地：弘前市吉野町2-1
構造：レンガ造り二階建
建築年：大正時代
延べ床面積：3,956.25㎡
（一番大きな部屋［通称黒い部屋］は、19.1m×57.3m＝1,094.43㎡）
設計者：不明
施工者：不明

12）
2005年4月16日（土）- 5月22日（日）
『Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer』
吉井酒造煉瓦倉庫（弘前）

photo:©Masako Nagano

13）
奈良美智展弘前
「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」

photo:©Masayuki Hasegawa

※資料画像の提供とご使用について
画像資料の番号をお知らせいただければ、メール添付あるいはCD-Rをお送り致します。
開催地、撮影者ほかのクレジット等お間違いのないように、ご確認の上、ご使用ください。

広報担当：工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082　fax:06-6459-2083
e-mail　az@graf-d3.com　http://www.graf-d3.com/

6 運営の特色

非営利団体による運営

「奈良美智　I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」の会場となった倉庫のリノベーションから、展覧会の運営までを、延べ3,500人ものボランティアスタッフが実行。人口約17万人の小さな街に約６万人もの観客がこの展覧会におとずれるという、前代未聞の成功を収めることになりました。

この実行メンバーを中心に2003年に結成されたのが、NPO harappaです。2005年春には、このNPO harappa と新たな実行メンバーやボランティアスタッフと共に、同倉庫において「Yoshitomo NARA From the Depth of My Drawer」を開催し、ふたたび大きな成功を収めました。

前の実行委員会の活動を礎とし、A to Z プロジェクトのために立ち上がったのが「A to Z 実行委員会」です。既存の美術館のようにすでに予算化された収入があって運営される展覧会事業等との差異は、このプロジェクトの内容に賛同する方たちの協力、協賛によって成立するという非営利団体ならではの方法論による運営です。
（NPO harappa 別添資料参照）

14）
ボランティアスタッフ集合写真（2002）

photo:©Masayuki Hasegawa

ファンドレイズ関係　出資金制度について
A to Z 実行委員会は、A to Z を実施するために、非営利を前提として、展覧会への夢を共有していただける方々から、出資・協賛やオークションへの参加を募ります。

[出資]
個人、企業等から一口10万円の出資金を募ります。もしも、展覧会の収入が支出を上回った場合、出資金は返却されます。非営利を原則としますので、出資者に収益が配当されることはありません。収入の余剰金は、同等の文化事業に充てることとします。

[協賛]
個人、企業等から一口1万円の協賛金を募ります。

[オークション]
A to Z 展のための奈良美智作品のオークション等を行います。

※資料画像の提供とご使用について
画像資料の番号をお知らせいただければ、メール添付あるいはCD-Rをお送り致します。
開催地、撮影者ほかのクレジット等お間違いのないように、ご確認の上、ご使用ください。

広報担当：工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082　fax:06-6459-2083
e-mail　az@graf-d3.com　http://www.graf-d3.com/

YOSHITOMO NARA
+graf
AtoZ
July29-October22,2006
Hirosaki
www.harappa-h.org/AtoZ/

7 横浜トリエンナーレ出品作品について

本年9月28日からはじまる「横浜トリエンナーレ2005」において、奈良美智＋grafは出品作家として選ばれました。この国際展においては、メイン会場である横浜港山下ふ頭の倉庫に、９つの部屋をもつ小屋を建て、そのなかに奈良のドローイングやペインティングほかを展示してゆきます。来年のA to Z に向けての重要な通過地点と位置づけている横浜での展示にもご期待ください。

A to Z 応援ブースもハマトリ会場に登場か?!

A to Z プロジェクトは応援して下さる方たちとともに、進んでゆきます。A to Z プロジェクトは、さまざまな方々の支援が必要です。プロジェクトの進行状況のリポートや、これにかかわるアーティストやスタッフの声を届けるニューズレターや、イベントなどの情報を横浜の会場でも随時提供してゆきます。

8 連絡先

A to Z 実行委員会
〒036-8182 青森県弘前市土手町78ルネス街2F NPO harappa内
tel:0172-31-0195 fax:0172-31-0196 担当:奈良岡、小杉
e-mail a_z@harappa-h.org
http://www.harappa-h.org/AtoZ/

広報担当：工藤、原
〒530-0005 大阪市北区中之島4-1-18 graf内
tel:06-6459-2082 fax:06-6459-2083
e-mail az@graf-d3.com
http://www.graf-d3.com/